

## 非常食の考え方を変えるローリングストック

### ◆日常的に消費しながら、もしもの時に備える食品備蓄法「ローリングストック」

2020年11月、第29回食品安全安心・環境貢献賞は、アサヒバイオサイクル、ニチレイフーズ、日清食品ホールディングス（HD）など6社が受賞した。即席麺のバイオニア、日清食品HDは、即席麺におけるサステナビリティへの挑戦が評価された。なかでも19年から始めたローリングストックセットが高く評価された。

ローリングストックとは、備蓄食品を日常的に使いながら、使った分だけ定期的に買い足していく無駄のない備蓄方法で、国や自治体も推奨している。

日清食品HDの「カップヌードル ローリングストックセット」は、電気、ガス、水道が使えない万一の状況でも、温かい「カップヌードル」を食べることが出来る防災備蓄セット。初回（価格1万3,000円）にはカセットコンロや片手鍋、保存水などがまとめて配達され、2回目以降は全13種類から好みの組み合わせで3ヵ月ごとに9食が届くという日清食品初のサブスクリプションサービスだ。

### ◆包装改良で賞味期限を延長し、日常食を非常食としても対応可能にした取組

非常食はとかく炭水化物が多く、野菜不足など栄養が偏りがちになる。カゴメは、20年から「野菜たっぷりスープ」の賞味期限を4年から5年半に延長し、ローリングストック向け商品として販売している。もとはギフト用として開発した商品だが、包装パッケージの素材を、酸素を吸収する材料に変えたことで劣化を防ぎ、長期の賞味期限を可能にした。また「野菜1日これ1本長期保存用」は、腐食に強いポリエステルフィルムをコーティングした缶蓋を採用し5.5年の賞味期間を実現、両者を合わせて「野菜の保存食セット」として販売している。

また災害時には、精神的不安が緩和される甘いものもほしくなる。井村屋グループでは、19年11月から「チョコえいようかん」の賞味期限を3年半から5年半に延長した。品質安定のため、ようかんの糖度を上げ、熱・光・酸素を通さない4層の特殊フィルムで包装し、品質の劣化を抑えている。

ローリングストックは、食べ慣れているものを食べることで災害時のストレス軽減も期待され、今後さまざまな食品に広がることが予想される。 【秋元真理子】